

(様式7)

学位論文審査結果の要旨

氏名	春日君夫
審査委員	委員長 山田 茂 印 委員 河合 一 印 委員 得能 貢一 印 委員 田村 慶信 印 委員 _____ 印
論文題目	高品質ソフトウェア開発のためのプロセス監視に基づく プロジェクトマネジメント技術に関する研究
<p>審査結果の要旨</p> <p>本論文は、著者の実務経験に基づく問題意識から高品質ソフトウェア開発システムを構築するために、プロジェクトマネジメントに重要と考えられる課題を明確にして、その解決に取り組んだものである。特に、ソフトウェアプロジェクトに対するプロセス監視活動を中心において、プロジェクトマネジメント技術を開発現場で役立つように改善を行い、更なる向上を図り、開発現場に定着させていった活動を体系的にまとめている。</p> <p>まず、形骸化していた従来のソフトウェア開発プロセスの再構築を図り、実務経験から獲得した開発プロセスを管理するプロジェクトマネジメント技術を明確化した。次に、的確なマネジメントを実施していく上で必要となる標準化した成果物、管理資料、定型化するための手法を示すことにより、プロジェクトマネジメント技術を会社組織に効果的に定着させている。</p> <p>また、これらの構築した開発プロセスとプロジェクトマネジメント技術を基礎にして、リスクの早期抽出と対策状況を第三者が監視することにより、プロジェクトの「よじれ」（目標を達成するために設定した諸管理指標の計画値と実績値の乖離が著しい状況）を未然に防止するために提案したソフトウェアプロセス監視活動は、プロジェクトを成功に導いていく上で極めて有益な管理手法であることを実証している。さらに、組織活動としてのソフトウェア障害の撲滅活動は、発生障害の抑制および未解決障害の滞留件数の低減を図ることを通じて、重大な経営課題を払拭するなど、非常に高い効果を示している。</p> <p>最後に、設計品質の評価は、システム仕様書（基本設計書）の品質（完成度）向上を図る方法として、また試験品質の評価は、製品品質を向上させるのに影響度の高い主要因である試験項目の網羅性を評価する方法として、極めて有益なプロジェクト評価手法を提案している。</p> <p>以上の内容、すなわち、ソフトウェア開発プロセスにおけるプロジェクトマネジメント技術の明確化、ソフトウェア開発プロセス監視方法の提案、ソフトウェア障害の撲滅方法の改善、設計品質および試験品質の向上策の提案は、新規性・有効性が十分に認められ、ソフトウェア開発におけるプロジェクトマネジメント技術の発展の中で、本論文の実務への貢献度は大きいと判断される。よって、本論文は博士(工学)の学位論文に値するものと認められる。</p>	